

学生海外研修報告 「海外研修を終えて」

昭和大学は国際的な視野を持った医療人を育てるため、国際交流プログラム・短期海外研修の企画・実施に力を入れており、ヨーロッパ、アジア、アメリカ、オーストラリア、カナダなどの世界各国の大学や病院に学生を毎年送り出している。

台北医科大学 (台湾)

佐藤智輝(医学部6年)

私は、4月からの台北医科大学での実習にあたり、大きな目標を2つ掲げました。1つ目は、日本と台湾の医療の違いを感じて学ぶこと、2つ目は現地の学生との交流です。実習では、回診の前には級医や学生達と病室や患者さんについて話したことや学生達と病室に対する議論をすることができたこと、そして超音波検査の所見について教えていただいたことなどが特に印象的でした。その他、不妊医療やダヴィンチによる手術見学等の日本の学生実習では回りにくい分野も経験できました。



カリフォルニア大学 (オサンゼルス校米国)

橘有理沙(医学部2年)

前年度の海外研修を機に、今度は海外の大学で講義を受けてみたいと思っていました。渡航前に不安はありましたが、好奇心を胸に、カリフォルニア大学オサンゼルス校への海外研修に挑戦させていただくことにしました。

現地では生理学と英語のクラスを受講しました。現地でしか体験できないものはたくさんありましたが、全てが順風満帆ではありませんでした。理想と現実のギャップが大きく、苦しむ海外の大学に進学した友人に連絡をしたことがありました。私がどうなりたくてここに来たのかも一度思い出すという助言をもらい、また頑張ってみよう立ち直りました。英語のクラスでは先生から直接、何が出来る、何が出来ないのかの評価をいただいたため、頑張りを認めてもらえた気がして今後の自信につながりました。典子先生、成田先生、齋藤先生とお会いし、自分の意見を述べたいという共通の思いが感じられました。



今回の研修では国際社会の中で自分がどの立ち位置

ウイーン医科大学 (オーストリア)

奈良麻衣(歯学部6年)

私は4月1日から約1か月間、オーストリアのウイーン医科大学歯科病院での実習に参加しました。国際交流に興味があり、歯学を英語で勉強したいと思っていたため参加を決めました。初めての研修であることや主言語がドイツ語であることから多くの不安がありました。しかし、実習が始まってみると、診療はドイツ語でしたが、質問や先生方との会話は英語で問題がなく、患者さんとも話すことができました。実習内容は診療の見学で、ほとんどの診療科は学生が主体で治療を行っていたため、とても近くで見学させてもらいました。他にもさまざまな診療科を見学しましたが、その中でも印象に残っているのは口腔外科です。歯科病院で手術を見学し、終了後に執刀していただいた先生に質問した内容について、スラ



最後に、この実習の実現を支えていただいた先生方と友人に感謝申し上げます。

アジア太平洋 歯科学会(タイ)

田中 佑樹(歯学部4年)

8月1日より5日までタイのバンコクで開催されたアジア太平洋歯科学会(AAPDS)に参加し、参加学生が研究発表を行い、その評価を競うScientific Research Competition (SRC)にて、演題名「Gene expression profiling in Pringle rat Blood Mononuclear Cells treated with zoledronic acid」でポスター発表を行いました。今年3月に履修した口腔生化学教室での「研究入門」に参加させていただき、基礎研究が大変興味深かったためSRCにて発表をさせていただきました。他国の学生と研究内容や学習内容の話で大変盛り上がり、歯科学会同士の貴重な交流となりました。アジア諸国において歯学部のレベルはとても高く、学生が早い時期から患者さんに対する治療をおこなう国が多いなど、日本との違いにも驚かされました。また、海外において歯科医療を学ぶことは違った視点を持つために大変興味深いです。来年はカンボジア、再来年は日本の開催が予定されています。昭和大学からぜひ多くの学生が参加することを願っています。



今回の参加および発表に際し、ご指導賜りました上條竜太郎先生、山田篤先生、笹清人先生、口腔生化学教室の先生方ならびに国際交流センターの先生方、ご協力いただきました全ての皆さまにこの場をお借りして心から感謝申し上げます。

オックスフォード大学 (イギリス)

杉山 幸翼(薬学部2年)

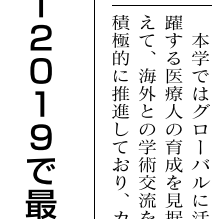
私は将来、海外でも活躍したいという思いから、語学力向上と海外の文化や習慣に触れ、医療を学び、視野を広げたいと考え、オックスフォード大学での留学を志願しました。イギリスは、私が初めて訪れるヨーロッパの国です。イギリス英語は聞き取りにくく現地の方との会話には苦労しました。特に外食する際、日本やアメリカとは全く違う習慣やメニューがあり戸惑いました。一方、この潜在を通じ触れたことのないイギリスの文化、大学生活、現地の病院見学などさまざまな経験をし、実際に行ってみないと得られないことを学びました。



市内の医療施設見学、オックスフォード大学医学部の先生による医療講義は特に印象に残っています。EUで歯科の学位を持つ人はEU加盟国内で歯科医として働くことができず、実際、説明してくださった先生はスベイン人でした。地域の病院では、独自の評価基準で、心拍数や体温などの患者のバイタルに点数をつけて健康状態を把握していることを知りました。また、大学の先生の講義は、ただ話を聞くのではなくテーマに対して自らの意見を発言し、ペアやグループで討論することが多く、クイズ形式のゲームを行うこともあり、楽しみなが語学力を向上させることができました。短い期間ではありましたが、このような機会を与えて下さった多くの方々感謝申し上げます。

歯学部が学部間協定を締結 — ホーチミン市医科大学歯学部 —

昭和大学歯学部はホーチミン市医科大学(University of Medicine and Pharmacy at Ho Chi Minh City) (ベトナム社会主義共和国)と学部間協定を締結しました。調印式は10月9日、ホーチミン市医科大学で行われ、本学からは、宮崎隆国際交流センター長、桑田啓貴歯学部国際交流委員長、橋本みゆき国際交流センター教授とマイヤースマイク国際交流センター講師が出席し、ホーチミン市医科大学は、Nguyen Thi Lan 歯学部長、To Doi Xuan Hong 国際交流センター長をはじめ関係者が出席した。これを期に学生、教員の交換や共同研究などにおいて活発な交流活動が期待される。本学ではグローバルに活躍する医療人の育成を見据えて、海外との学術交流を積極的に推進しており、カ



大澤三和技術員がCCT2019で最優秀演題

今年3月に履修した口腔生化学教室での「研究入門」に参加させていただき、基礎研究が大変興味深かったためSRCにて発表をさせていただきました。他国の学生と研究内容や学習内容の話で大変盛り上がり、歯科学会同士の貴重な交流となりました。アジア諸国において歯学部のレベルはとても高く、学生が早い時期から患者さんに対する治療をおこなう国が多いなど、日本との違いにも驚かされました。また、海外において歯科医療を学ぶことは違った視点を持つために大変興味深いです。来年はカンボジア、再来年は日本の開催が予定されています。昭和大学からぜひ多くの学生が参加することを願っています。

今回の参加および発表に際し、ご指導賜りました上條竜太郎先生、山田篤先生、笹清人先生、口腔生化学教室の先生方ならびに国際交流センターの先生方、ご協力いただきました全ての皆さまにこの場をお借りして心から感謝申し上げます。

今回の研修では国際社会の中で自分がどの立ち位置

